口腔外科的治療（AST：Advanced Surgical Treatment）

（H29 年 8 月 29 日～10 月 2 日）
コース責任者：山田浩之（主)、小豆島正典、武田泰典

担当講座（分野）担当 Director： 解剖学講座（機能形態学分野） 藤村　朗
薬理学講座（病態制御学分野） 田村　晴希
口腔顎顔面再建学講座（臨床病理学分野） 武田　泰典
口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野） 山田　浩之
口腔顎顔面再建学講座（歯科放射線学分野） 小豆島　正典

第 4 学年　　講義：115.5 時間　　演習：7.5 時間　　実習：7.5 時間

教育成果（アウトカム）

これまでに学習した人体の解剖学や病理学、薬理学の知識を統合し、口腔病変の病態や診断および口腔外科学的な処置･治療に関する知識･技能･態度を学ぶことで、顎口腔領域に疾患をもつ患者を適切に治療できるようになる。

（ディプロマ・ポリシー：1、5）

事前学修内容及び事前学修時間（30 分）

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

講義日程

月　日	担当者	**ユニット名** 内　容	到達目標
8 月 29 日 (火) 1 限	山田浩之教授 （口腔外科学）	**医療面接と診察法** 顎･口腔外科の診療において必要な医療面接の知識・態度・技能を習得する。	1. 医療面接を概説し、その重要性について説明する。 2. 医療面接で収集・留意すべき情報を列挙する。 3. 診察法の種類を列挙その概略を説明する。
8 月 29 日 (火) 2 限	山田浩之教授 （口腔外科学）	**主要症候** 口腔外科疾患における主要な症候を理解し、診断に必要な知識を習得する。	1. 主要な症候とその概略を説明する。 2. 主要な症候の原因、病理を説明する。 3. 主要な症候を有する主な疾患を列挙する。
8 月 29 日 (火) 3 限	熊谷章子准教授 （法歯学・災害口腔医学）	**基本的検査法 1** 顎･口腔外科の診察において必要な検査法を習得する。	1. 基本的な検査法を上げ、その概略を説明する。 2. 基本的な検査法の臨床的意義を説明する。 3. 各臨床検査の基準値を述べ、異常値の意味を説明する。

月　日	担当者	ユニット名 内　容	到達目標
8月29日(火) 4限	武田泰典教授 (臨床病理学)	**基本的検査法２** 病理検査法 病理診断１ 口腔領域に発症する疾患の診断を適切に行うために、病理学的所見の基礎的知識を習得する。	1. 検体検査の種類を列挙する。 2. 病理検査の種類を列挙する。 3. 病理検査の意義と特異性を説明する。 4. 検体採取から依頼までの過程と注意事項を説明する。 5. 標本作製から診断までの過程を説明する。
8月30日(水) 1限	泉澤　充講師 (歯科放射線学)	**基本的検査法３** 画像診断学１ 基礎 口腔領域に発症する疾患の治療を適切に行うために、画像診断所見の記載方法を習得する。	1. 読影所見の記載方法を列記する。 2. 歯根嚢胞を例として、読影所見を記述する。 3. 歯および歯周組織疾患のX線所見を述べる。
8月30日(水) 2限	泉澤　充講師 (歯科放射線学)	**基本的検査法４** 画像診断学２ 基礎 口腔領域に発症する疾患の治療を適切に行うため、MRI読影に必要な基礎的知識を習得する。	1. T1強調像、T2強調像、プロトン強調像造影撮像について説明する。
8月30日(水) 3限	阿部亮輔助教 (口腔外科学)	**基本的検査法５** 全身状態の評価 口腔外科処置を行うにあたって、全身状態を評価し、施術可能かどうかを判断できる知識を習得する。	1. 歯科治療に際して留意すべき全身状態を列挙できる。 2. 全身状態を評価するために必要な検査項目を列挙できる。 3. 全身状態を評価するために必要な検査項目を説明できる。
8月30日(水) 4限	阿部亮輔助教 (口腔外科学)	**復習講義１**	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
8月31日(木) 1限	飯島伸助教 (口腔外科学)	**先天異常・後天異常１** 顔面・口腔の奇形 先天性・後天性異常の概念、成因、発生との関連について理解し、奇形に関する知識を習得する。	1. 先天異常・後天異常の概念と成因について説明する。 2. 顔面・口腔の発生と先天異常との関連について説明する。 3. 顔面･口腔の奇形の種類を列挙する。 4. 口唇裂の発生率、裂型、症状、治療法を説明する。 5. 口蓋裂の発生率、裂型、症状、治療法を説明する。

月　日	担当者	**ユニット名** 内　容	到達目標
8 月 31 日（木） 2 限	飯島伸助教 （口腔外科学）	**先天異常・後天異常２** 顎の異常 顎の先天性・後天性異常に関する知識を習得する。	1. 主要な顎形態異常を列挙できる。 2. 主要な顎変形症の症状を説明する。 3. 主要な顎変形症の診断法を説明する。 4. 主要な顎変形症の治療法を説明する。
8 月 31 日（木） 3 限	宮本郁也准教授 （口腔外科学）	**先天異常・後天異常３** 軟組織の異常 顎・口腔に異常を現す症候群と系統的骨疾患 先天性・後天性の軟組織の異常ならびに顎・口腔に異常を現す症候群と系統的骨疾患に関する知識を習得する。	1. 主要な軟組織の異常と治療法を説明する。 2. 顎口腔に異常を現す主要な症候群と系統的骨疾患を列挙し症状を説明する。 3. 主要な症候群と系統的骨疾患の診断法を説明する。
8 月 31 日（木） 4 限	宮本郁也准教授 （口腔外科学）	**復習講義２**	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
9 月 1 日（金） 1 限	山谷元気助教 （口腔外科学）	**顎顔面の損傷 1** 総論 口腔顎顔面領域に見られる損傷の概念、症状、治療について習得する。	1. 損傷の種類を列挙する。 2. 損傷の症状を概説する。 3. 損傷の治療法を概説する。
9 月 1 日（金） 2 限	山谷元気助教 （口腔外科学）	**顎顔面の損傷 2** 軟組織の損傷・合併損傷 顔面および口腔軟組織損傷の診断法と治療について理解する。 口腔顎顔面外傷の合併傷の診断法と治療法について習得する。	1. 軟組織損傷を分類し、それぞれの症状、処置法および治癒過程を説明する。 2. 軟組織損傷の治療原則を説明する。 3. 口腔顎顔面外傷の合併症の種類と特徴を説明する。 4. 合併傷を分類し、それぞれの処置法、症状および処置法を説明する。
9 月 1 日（金） 3 限	宮本郁也准教授 （口腔外科学）	**顎顔面の損傷 3** 歯の外傷・歯槽骨骨折 歯の損傷および歯槽骨骨折の診断法と治療について修得する。	1. 歯の損傷の種類と特徴および治癒過程を説明する。 2. 歯の損傷の診断と治療法を説明できる。 3. 歯槽骨骨折の診断と治療法を説明する。

月　日	担当者	ユニット名 内　容	到達目標
9月1日（金） 4限	宮本郁也准教授 （口腔外科学）	**顎顔面の損傷 4** 顎骨骨折ほか 顎顔面骨折の診断と治療について習得する。	1. 一般的な骨折の種類と特徴および治癒過程を説明する。 2. 顎顔面骨折の原因と種類を列挙する。 3. 上顎骨骨折、下顎骨骨折、頬骨・頬骨弓骨折および鼻骨骨折の症状と検査法を列挙し、診断と治療法を説明する。
9月4日（月） 1限	阿部亮輔助教 （口腔外科学）	**復習講義３**	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
9月4日（月） 2限	阿部亮輔助教 （口腔外科学）	**炎症 1** 顎口腔の炎症 総論 炎症の概念を理解し、歯性感染症に関する知識を習得する。	1. 炎症の概念・種類を説明する。 2. 炎症の症状、診断法、治療法を説明する。 3. 歯性感染症の概念を説明する。 4. 歯性感染症の概念と感染経路を説明する。 5. 急性炎症と慢性炎症の差異を説明する。
9月4日（月） 3限	藤村朗教授 （機能形態学）	**炎症 2** 組織間隙と支配血管 顎顔面領域の組織隙について習得する。 選択的動注化学療法に必要な血管の走行について習得する。	1. 口底蜂窩織炎の波及について筋隙の観点から解剖学的に説明する。 2. 翼突下顎隙を解剖学的に説明する。 3. 頭頸部の動脈の走行を説明する。 4. 超選択的動注化学療法に必要な全身の血管の走行を説明する。
9月4日（月） 4限	武田泰典教授 （臨床病理学）	**炎症３** 病理診断 2 炎　症 口腔領域に発症する疾患の診断を適切に行うために、炎症と粘膜疾患の病理組織像を習得する。	1. 炎症の定義と分類を説明する。 2. 滲出性炎の分類と特徴を説明する。 3. 増殖性炎の特徴を説明する。 4. アレルギー性炎を説明する 5. 炎症に関与する細胞の形態と機能を説明する。 6. 炎症巣の治癒について説明する。
9月5日（火） 1限	阿部亮輔助教 （口腔外科学）	**炎症 4** 歯周組織の炎症 顎骨の炎症 各種顎骨の炎症に関する知識を習得する。	1. 歯周組織の病態、症状、治療法を説明する。 2. 歯冠周囲炎（智歯周囲炎を含む）の発症原因、症状、診断、治療について説明する。 3. 歯槽骨炎と顎骨炎の病態、症状症状、診断、治療について説明する。 4. 顎骨骨髄炎の分類について説明する。 5. 急性顎骨骨髄炎の症状、経過、治療法について説明する。

月　日	担当者	ユニット名 内　容	到達目標
9月5日（火） 2限	阿部亮輔助教 （口腔外科学）	**炎症５** 顎骨周囲組織の炎症 蜂窩織炎 歯性上顎洞炎 顎骨周囲組織の炎症および歯性上顎洞炎の治療に必要な知識を習得する。	1. 顎骨周囲・頚部の組織隙を列挙する。 2. 顎骨周囲・頚部の組織隙の位置を説明する。 3. 軟組織炎症の症状を説明する。 4. 蜂窩織炎と膿瘍の違いを説明する。 5. 軟組織炎症の検査法と治療法を説明する。 6. 歯性上顎洞炎の成因、検査法、治療法を説明する。
9月5日（火） 3限	山谷元気助教 （口腔外科学）	**炎症６** 特異性炎 歯性全身感染症 顎・口腔顔面領域における特異性炎および歯性感染症が全身に及ぼす影響に関する知識を習得する。	1. 特異性炎の概念を説明する。 2. 顎・口腔顔面領域にみられる特異性炎の種類を列挙する。 3. 主要な特異性炎の原因菌を列挙する。 4. 主要な特異性炎の症状、検査法、治療法を説明する。 5. 歯性病変と全身感染症との関連について説明する。 6. 菌血症と敗血症の病態を説明する。 7. 歯性病巣感染の病態を説明する。
9月5日（火） 4限	泉澤充講師 （歯科放射線学）	**炎症７** 画像診断4 骨折・炎症 口腔領域の外傷・骨折や上顎洞疾患の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明する。 急性骨髄炎・慢性骨髄炎・Garre骨髄炎・放射線性骨髄炎・放射線性骨壊死・BRONJ・上顎洞炎・上顎洞真菌症・上顎洞粘液貯留嚢胞・術後性上顎嚢胞・上顎洞癌・上顎骨骨折・下顎骨骨折
9月6日（水） 1限	山田浩之教授 （口腔外科学）	**復習講義４**	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
9月6日（水） 2限	武田泰典教授 （臨床病理学）	**口腔粘膜疾患１** 病理診断3 口腔粘膜疾患の診断や病態把握を適切に行うために、口腔粘膜疾患の病理所見を習得する。	1. 正常な口腔粘膜の形態と上皮の機能について説明する。 2. 細胞異型や組織異型、上皮異形成について説明する。 3. 水疱性疾患、角化性疾患、色素沈着などの口腔粘膜疾患の病理組織像を説明する。

月　日	担当者	ユニット名 内　容	到達目標
9月6日（水） 3限	宮本郁也准教授 （口腔外科学）	**口腔粘膜疾患２** 総論 口内炎およびアフタ性病変 口腔粘膜の解剖学的特徴について学習し、口内炎およびアフタ性病変に関する知識を習得する。	1. 口腔粘膜の解剖学的構造について説明する。 2. 口内炎やアフタの成因、症状について説明する。 3. 口内炎やアフタの治療法について説明する。
9月6日（水） 4限	宮本郁也准教授 （口腔外科学）	**口腔粘膜疾患３** 水疱性疾患 ウイルス性疾患 水疱性疾患およびウイルス性疾患に関する知識を習得する。	1. 口腔粘膜に発症する水疱性疾患を列挙し、その特徴について説明する。 2. 口腔粘膜に発症する水疱性疾患の治療法について説明する。 3. 口腔粘膜に発症するウイルス性疾患を列挙し、その特徴について説明する。 4. 口腔粘膜に発症するウイルス性疾患の治療法について説明する。
9月7日（木） 1限	古城慎太郎助教 （口腔外科学）	**腫瘍１** 総論 口腔領域に発生する腫瘍に関する知識を習得する。	1. 一般的な腫瘍の特徴や性質を説明する。 2. 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明する。
9月7日（木） 2限	古城慎太郎助教 （口腔外科学）	**腫瘍２** 総論 口腔領域に発生する歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍に関する知識を習得する。	1. 口腔領域に発症する歯原性腫瘍を列挙し、その特徴について説明する。 2. 口腔領域に発症する非歯原性腫瘍を列挙し、その特徴について説明する。
9月7日（木） 3限	山田浩之教授 （口腔外科学）	**腫瘍３** 歯原性腫瘍 歯原性腫瘍の種類を把握し、発生病因、臨床症状、病理組織像、診断、治療法を習得する。	1. 歯原性腫瘍を列挙し分類する。 2. 歯原性良性腫瘍の一般的な臨床症状を説明でき、診断に必要な検査を挙げ、その概略を説明する。 3. 歯原性良性腫瘍の一般的な治療法を説明する。
9月7日（木） 4限	武田泰典教授 （臨床病理学）	**腫瘍４** 病理診断４ 腫瘍 口腔領域に発症する疾患の診断を適切に行うために、腫瘍の病理組織所見を習得する。	1. 腫瘍の総論的事項を説明する。 2. 口腔領域に生じる腫瘍を組織由来や良悪性によって分類し、それぞれで頻度の高いものを具体的に列挙する。 3. 口腔領域に生じる腫瘍について、それぞれの病理組織所見を説明する。

月　日	担当者	ユニット名 内　容	到達目標
9月8日（金） 1限	泉澤充講師 （歯科放射線学）	**腫瘍５** 画像診断５ 腫瘍 口腔領域に発生する良性歯原性・非歯原性腫瘍の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明する。 エナメル上皮腫・角化嚢胞性歯原性腫瘍・石灰化上皮性歯原性腫瘍・石灰化嚢胞性歯原性腫瘍・腺腫様歯原性腫瘍・歯原性粘液腫・エナメル上皮線維歯牙腫・エナメル上皮線維腫・歯原性線維腫
9月8日（金） 2限	山田浩之教授 （口腔外科学）	**復習講義５**	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
9月8日（金） 3限	古城慎太郎助教 （口腔外科学）	**腫瘍６** 前癌病変 口腔領域に発生する前癌病変に関する知識を習得する。	1. 前癌病変の概念を説明する。 2. 前癌病変の種類を列挙する。 3. 前癌病変の診断と治療法について説明する。
9月8日（金） 4限	古城慎太郎助教 （口腔外科学）	**腫瘍７** 癌腫 顎顔面口腔領域に発生する上皮性の悪性腫瘍に関する知識を習得する。	1. 非歯原性悪性腫瘍の分類について概説する。 2. 悪性腫瘍の特徴について概説する。 3. 口腔癌の臨床症状を説明する。 4. 口腔癌の各種画像所見を説明する。 5. 口腔癌の病理組織像について説明する。 6. 口腔癌の治療、予後について説明する。
9月11 日(月) 1限	泉澤充講師 （歯科放射線学）	**腫瘍８** 画像診断６ 悪性腫瘍 口腔領域に発症する悪性腫瘍と骨髄炎の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明する。 下顎歯肉癌・舌癌・口腔底癌・上顎歯肉癌・上顎洞癌・頬粘膜癌・骨肉腫・悪性黒色腫・悪性リンパ腫
9月11 日(月) 2限	宮本郁也准教授 （口腔外科学）	**腫瘍９** 肉腫、悪性リンパ腫、悪性黒色腫 顎顔面口腔領域に発生する非上皮性の悪性腫瘍に関する知識を習得する。	1. 口腔顎顔面領域に発症する主な悪性腫瘍を列挙する。 2. 主な肉腫の種類を列挙する。 3. 主な肉腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明する。 4. 悪性リンパ腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明する。 5. 悪性黒色腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明する。

月　日	担当者	ユニット名 内　容	到達目標
9 月 11 日(月) 3 限	山田浩之教授 (口腔外科学)	**復習講義６**	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
9 月 11 日(月) 4 限	山田浩之教授 (口腔外科学)	**腫瘍 10** 腫瘍の治療 1 外科療法 顎顔面口腔領域に発生する悪性腫瘍に対する手術の種類、適応、術式について習得する。	1. 悪性腫瘍に対する治療の基本を説明する。 2. 舌癌の切除法の種類を列挙し、適応を説明する。 3. 下顎歯肉癌の切除法の種類を列挙し、適応を説明する。 4. 上顎歯肉癌の切除法の種類を列挙し、適応を説明する。 5. 頸部郭清術の術式を説明する。
9 月 12 日(火) 1 限	田村晴希講師 (病態制御学)	**腫瘍 11** 腫瘍の治療 2 抗炎症薬と抗癌剤 炎症および悪性腫瘍に対する治療薬の薬理学的知識を習得する。	1. ケミカルメディエータについて説明する。 2. 抗炎症薬の作用点について説明する。 3. 化学療法薬について説明する。 4. 抗腫瘍性抗生物質について説明する。
9 月 12 日(火) 2 限	山田浩之教授 (口腔外科学)	**腫瘍 12** 腫瘍の治療 3 化学療法、その他の治療 顎顔面口腔領域に発生する悪性腫瘍に対する化学療法や免疫療法の種類、適応について習得する。	1. 悪性腫瘍の化学療法について概説する。 2. 口腔悪性腫瘍に使用する化学療法薬を列挙する。 3. 化学療法薬の投与法を説明する。 4. 化学療法薬の副作用を説明する。
9 月 12 日(火) 3 限	大橋祐生助教 (口腔外科学)	**腫瘍 13** 腫瘍の治療 4 放射線治療 口腔癌の治療を適切に行うため、癌の放射線治療の基礎的知識・態度を習得する。	1. 放射線治療における副作用について説明する。 2. 治療患者の口腔内管理について説明する。 3. 悪性腫瘍に対する外照射の適応・方法について説明する。 4. 悪性腫瘍に対する密封小線源照射の適応・方法について説明する。
9 月 12 日(火) 4 限	大橋祐生助教 (口腔外科学)	**復習講義７**	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
9 月 13 日(水) 1、2 限	宮本郁也准教授 (口腔外科学)	**AST Ⅰ　評価試験**	9 月 12 日までに修得した知識を確認する。

月　日	担当者	**ユニット名** 内　容	到達目標
9月14日(木) 1限	宮本郁也准教授 (口腔外科学)	**嚢胞1** 総論 口腔領域に発生する嚢胞の分類、臨床症状、画像診断、病理組織診断、治療法を習得する。	1. 口腔領域に発生する嚢胞を分類、その臨床症状を説明する。 2. 嚢胞の画像所見と病理所見を説明する。 3. 嚢胞に対する適切な治療を説明する。
9月14日(木) 2限	宮本郁也准教授 (口腔外科学)	**嚢胞2** 1 顎嚢胞 2 軟組織の嚢胞 口腔顎顔面領域に発生する嚢胞の分類、発生病因、診断、治療法を習得する。	1. 顎骨および軟組織に発生する嚢胞を分類し、それぞれの発生病因と臨床症状、画像検査所見、病理組織所見を述べ、治療法を概説する。 2. 嚢胞に対する手術法および器具の種類を列挙し用法を説明する。 3. 術中、術後の偶発症と対処法を説明する。
9月14日(木) 3限	泉澤充講師 (歯科放射線学)	**嚢胞3** 画像診断7 口腔領域に発生する嚢胞や偽嚢胞の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明する。 歯根嚢胞・残留嚢胞・含歯性嚢胞・歯周嚢胞・側方歯周嚢胞・鼻口蓋嚢胞・鼻歯槽嚢胞・単純性骨嚢胞・静止性骨空洞・脈瘤性骨嚢胞
9月14日(木) 4限	武田泰典教授 (臨床病理学)	**嚢胞4** 病理診断5 嚢　胞 口腔領域に発症する疾患の診断を適切に行うために、嚢胞の病理組織所見を習得する。	1. 嚢胞の定義と成り立ちを説明する。 2. 口腔領域に生じる嚢胞を組織由来や発生部位によって分類し、それぞれに属するものを具体的に列挙する。 3. 口腔領域に生じる嚢胞について、それぞれの病理組織所見を説明する。
9月15日(金) 1限	宮本郁也准教授 (口腔外科学)	**復習講義8**	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
9月15日(金) 2限	藤村朗教授 (機能形態学)	**顎関節疾患1** 解剖 顎関節の解剖学的な構造、機能について習得する。	1. 顎関節の構造を説明する。 2. 顎関節の運動に関係する筋肉を説明する。 3. 顎関節の限界運動を説明する。

月　日	担当者	ユニット名 内　容	到達目標
9月15日(金) 3限	青村知幸 非常勤講師 (口腔外科学)	**顎関節疾患2** 顎関節症 顎関節症の種類、原因、症状、診断、治療に関する知識を習得する。	1. 顎関節の形態と機能について説明する。 2. 顎関節疾患の種類と原因を列挙する。 3. 顎関節疾患の症状・診断法を概説する。 4. 顎関節症の治療法を説明する。
9月15日(金) 4限	青村知幸 非常勤講師 (口腔外科学)	**顎関節疾患3** 外傷、炎症、形態・機能異常 顎関節における形態と機能異常、損傷、炎症性疾患の原因、症状、診断、治療に関する知識を習得する。	1. 主要な顎関節形態異常、機能異常の種類、原因、症状、治療法を列挙する。 2. 顎関節損傷の種類、原因、症状、治療法を列挙する。 3. 顎関節の炎症性疾患の種類、原因、症状、治療法を列挙する。
9月19日(火) 1限	山田浩之教授 (口腔外科学)	**復習講義９**	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
9月19日(火) 2限	山田浩之教授 (口腔外科学)	**唾液腺１** 唾液腺疾患 唾液腺疾患の症状、診断および治療法を習得する。	1. 唾液腺の炎症性疾患を説明する。 2. 唾液腺の外傷を説明する。 3. 唾液腺の閉塞性疾患を説明する。
9月19日(火) 3限	武田泰典教授 (臨床病理学)	**唾液腺２** 病理診断6 唾液腺疾患 口腔領域に発症する疾患の診断を適切に行うために、唾液腺病変の病理組織所見を習得する。	1. 唾液腺の解剖学的事項を説明する。 2. 唾液腺の非腫瘍性病変（化生、嚢胞、慢性炎症、免疫異常）の病理組織所見を説明する。 3. 唾液腺の腫瘍性病変（良性腫瘍と悪性腫瘍）の病理組織所見を説明する。
9月19日(火) 4限	泉澤充講師 (歯科放射線学)	**唾液腺３** 画像診断8 唾液腺疾患の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明する。 唾液腺炎・Sjogren症候群・Mikulicz症候群・唾石・唾液腺腫瘍

月　日	担当者	ユニット名 内　容	到達目標
9月20日(水) 1限	山田浩之教授 (口腔外科学)	**唾液腺４** 唾液腺腫瘍の治療 唾液腺腫瘍の症状、診断および治療法を習得する。	1. 唾液腺腫瘍の種類と特徴を説明する。 2. 唾液腺腫瘍の症状、検査および治療法を説明する。
9月20日(水) 2限	山田浩之教授 (口腔外科学)	**唾液腺５** ドライマウスの臨床 ドライマウスの診断および治療法ついて修得する。	1. ドライマウスの原因とその診断について説明する。 2. ドライマウスの診断に必要な検査および治療について概説する。 3. ドライマウスに関連する疾患と病態およびその対処法について説明する。
9月20日(水) 3限	山谷元気助教 (口腔外科学)	**復習講義１０**	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
9月20日(水) 4限	山谷元気助教 (口腔外科学)	**血液疾患１** 赤血球、白血球異常 貧血や白血病の全身的症状と口腔症状との関連について習得する。	1. 赤血球の異常を現す疾患を列挙する。 2. 貧血について概説する。 3. 貧血の症状と治療法を説明する。 4. 白血球の異常を現す疾患を列挙する。 5. 白血病について概説する。
9月21日(木) 1限	山谷元気助教 (口腔外科学)	**血液疾患２** 出血性素因 出血性素因に関する知識を習得する。	1. 出血性素因を示す主な疾患を列挙する。 2. 止血機能のスクリーニング検査項目を列挙する。 3. 主要な出血性素因の病因、病態、治療法を説明する。 4. 抗血栓療法について説明し適応疾患を列挙する。 5. 抗血栓療法薬を列挙する。
9月21日(木) 2限	山谷元気助教 (口腔外科学)	**復習講義１１**	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
9月21日(木) 3限	泉澤充講師 (歯科放射線学)	**系統的骨疾患** 画像診断９ 歯や顎骨に異常を呈する全身疾患の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明する。 副甲状腺疾患、甲状腺疾患、下垂体疾患、骨系統疾患、その他の全身疾患（基底細胞母斑症候群、Gardner 症候群、Papillon-Lèfevre 症候群、Albright 症候群、外胚葉異形成症、Down 症候群）

月　日	担当者	**ユニット名** 内　容	到達目標
9 月 21 日（木） 4 限	藤村朗教授 （機能形態学）	**神経疾患１** 神経疾患と解剖 顎顔面、頭頸部領域の神経支配と走行について習得する。	1. 脳神経の名称と通過する頭蓋底の孔名を説明する。 2. 三叉神経の走行と分布域を説明する。 3. 顔面神経の走行と分布域を理解し、顔面神経麻痺の症状を顔面神経の走行で説明する。 4. 頸静脈孔を通過する神経の走行と分布域を説明する。
9 月 22 日（金） 1 限	宮本郁也准教授 （口腔外科学）	**神経疾患２** 神経麻痺 神経麻痺の病態と治療法について習得する。	1. 顔面神経麻痺の特徴、症状および治療法を説明する。 2. 三叉神経麻痺の症状と治療法を説明する。 3. 舌咽神経麻痺の症状を説明する。
9 月 22 日（金） 2 限	宮本郁也准教授 （口腔外科学）	**神経疾患３** 口腔顔面痛と慢性疼痛 様々な口腔顔面痛ならびに心因性病態について習得する。	1. 顎顔面口腔領域の疼痛の種類を列挙する。 2. 三叉神経痛の概念、症状および治療法について説明する。 3. 舌咽神経痛の概念、症状および治療法について説明する。
9 月 22 日（金） 3 限	山田浩之教授 （口腔外科学）	**復習講義１２**	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
9 月 22 日（金） 4 限	山田浩之教授 （口腔外科学）	**手術１** 外来手術の基本手技 1 滅菌法・消毒法 消毒法について修得する。切開、縫合、止血、骨切削などに用いる器具について習得する。	1. 消毒法と滅菌法の概念を説明できる。 2. 消毒法と滅菌法の種類、適応について説明できる。 3. 術前の手指の消毒法を説明できる。 4. 手術野の消毒法を説明できる。 5. 縫合の種類を列挙し、説明する。 6. 止血法の種類を列挙し、説明する。
9 月 25 日（月） 1 限	古城慎太郎助教 （口腔外科学）	**手術２** 外来手術の基本手技 2 普通抜歯、埋伏歯抜歯 抜歯の手順や用いる器具の使い方について習得する。	1. 抜歯の適応症と禁忌症を説明する。 2. 抜歯の偶発症と合併症およびその対処法を説明する。 3. 抜歯に必要な器具を説明する。 4. 抜歯の正常治癒経過および異常な治癒経過とその対処法を説明する。 5. 抜歯の基本手技について説明する。
9 月 25 日（月） 2 限	古城慎太郎助教 （口腔外科学）	**手術３** 外来手術の基本手技 3 歯根端切除術 歯槽堤手術 歯の再植・移植 歯根端切除術、歯槽堤の手術を適切に実施するために必要な知識を習得する。	1. 歯根端切除術の適応症と禁忌症を説明する。 2. 歯根端切除術の偶発症と合併症およびその対処法を説明する。 3. 歯根端切除術に必要な器具の用法と手技を説明する。 4. 歯槽堤整形術の適応症と手技を説明する。 5. 歯の移植・再植の適応症と手技を説明する。

月　日	担当者	ユニット名 内　容	到達目標
9 月 25 日（月） 3 限	宮本郁也准教授 （口腔外科学）	**手術４** 外来手術の基本手技 4 その他の手術 軟組織の手術、補綴前手術を適切に実施するために必要な知識を習得する。	1. 軟組織の欠損や延長に関する手術の理論を説明する。 2. 小帯に対する手術の適応症と手技を説明する。 3. 補綴前手術の適応症と手技を説明する。
9 月 25 日（月） 4 限	宮本郁也准教授 （口腔外科学）	**手術５** 移植と再建外科 移植術による顎顔面領域の再建に必要な知識を習得する。	1. 軟組織の移植による再建術を説明する。 2. 骨の移植による再建術を説明する。 3. 骨延長法による再建術を概説する。 4. 生体材料による再建術を概説する。
9 月 26 日（火） 1 限	山田浩之教授 （口腔外科学）	**医療安全** 歯科医療における安全性への配慮と危機管理 安全な歯科治療を行うために、安全への配慮に関する知識･態度を習得する。	1. 医療事故と医療過誤の違いを説明する。 2. 医療事故の事例の原因の分析、防止策について説明する。 3. 医療事故発生時の緊急処置・記録・報告について説明する。 4. 針刺し事故の対処法を説明する。 5. 医療過誤における歯科医師の社会的責任と罰則規定の基本的事項を説明する。 6. 医療従事者の健康管理の重要性を説明する。
9 月 26 日（火） 2 限	山田浩之教授 （口腔外科学）	**復習講義１３**	これまでの学習を振り返り、重要事項を再確認しながらノートにまとめる。
9 月 26 日（火） 3 限	山田浩之教授 宮本郁也准教授 古城慎太郎助教 阿部亮輔助教 山谷元気助教 高橋美香子助教 飯島　伸助教 野宮孝之助教 大橋祐生助教 小野寺慧助教 （口腔外科学） 熊谷章子准教授 （法歯学・災害口腔医学）	**アクティブ･ラーニング１**	グループ学習 グループごとにプロダクトを作成

月　日	担当者	**ユニット名** 内　容	到達目標
9 月 26 日（火） 4 限	山田浩之教授 宮本郁也准教授 古城慎太郎助教 阿部亮輔助教 山谷元気助教 高橋美香子助教 飯島　伸助教 野宮孝之助教 大橋祐生助教 小野寺慧助教 （口腔外科学） 熊谷章子准教授 （法歯学・災害口腔医学）	**全体実習 1** 頭頸部の診察 （臨床第 1 実習室） 顔面･頸部の診察に関する知識、技能、態度を習得する。	1. 診察の環境を整える。 2. 適切なコミュニケーションをとりながら診察を行う。 3. 患者に配慮した診察を行う。 4. 頭頸部の診察の手順を説明する。 5. 頭頸部の診察を実施する。 6. 診察結果をカルテに記載する。 7. 診察結果を患者に説明する。
9 月 27 日（水） 1、2 限	山田浩之教授 宮本郁也准教授 古城慎太郎助教 阿部亮輔助教 山谷元気助教 高橋美香子助教 飯島　伸助教 野宮孝之助教 大橋祐生助教 小野寺慧助教 （口腔外科学） 熊谷章子准教授 （法歯学・災害口腔医学）	**アクティブ･ラーニング 2**	グループ学習 グループごとにプロダクトを作成
9 月 27 日（水） 3 限	山田浩之教授 宮本郁也准教授 古城慎太郎助教 阿部亮輔助教 山谷元気助教 高橋美香子助教 飯島　伸助教 野宮孝之助教 大橋祐生助教 小野寺慧助教 （口腔外科学） 熊谷章子准教授 （法歯学・災害口腔医学）	**全体実習 2** 手洗い （臨床第 1 実習室） 手を洗い、滅菌グローブが装着できる。	1. 清潔･不潔に配慮して手洗いができる。 2. 滅菌グローブを装着できる。

月　日	担当者	ユニット名 内　容	到達目標
9 月 27 日(水) 4 限	山田浩之教授 宮本郁也准教授 古城慎太郎助教 阿部亮輔助教 山谷元気助教 高橋美香子助教 飯島　伸助教 野宮孝之助教 大橋祐生助教 小野寺慧助教 （口腔外科学） 熊谷章子准教授 （法歯学・災害口腔医学）	**全体実習 3** 抜歯 （臨床第 1 実習室） 抜歯を適切に実施するために必要な知識、技能、態度を習得する。	1. 単純抜歯に必要な器具を列挙する。 2. 単純抜歯に使用する器具の使い方を説明する。 3. 抜歯鉗子の種類を区別する。 4. 抜歯に必要な器具、材料を清潔操作で準備する。 5. 抜歯操作を適切に行う。
9 月 28 日(木) 1、2 限	山田浩之教授 宮本郁也准教授 古城慎太郎助教 阿部亮輔助教 山谷元気助教 高橋美香子助教 飯島　伸助教 野宮孝之助教 大橋祐生助教 小野寺慧助教 （口腔外科学） 熊谷章子准教授 （法歯学・災害口腔医学）	**アクティブ･ラーニング 3**	グループ学習 グループごとの成果発表（全体発表）
9 月 28 日(木) 3 限	山田浩之教授 宮本郁也准教授 古城慎太郎助教 阿部亮輔助教 山谷元気助教 高橋美香子助教 飯島　伸助教 野宮孝之助教 大橋祐生助教 小野寺慧助教 （口腔外科学） 熊谷章子准教授 （法歯学・災害口腔医学）	**全体実習 4** 切開、縫合、抜糸 （臨床第 1 実習室） 切開、縫合、抜糸を適切に実施するために必要な知識・技能を習得する。	1. 縫合、抜糸に必要な器具、材料を準備する。 2. 切開を適切に行う。 3. 手指縫合を適切に行う。 4. 抜糸を適切に行う。

月　日	担当者	ユニット名 内　容	到達目標
9月28日(木) 4限	山田浩之教授 宮本郁也准教授 古城慎太郎助教 阿部亮輔助教 山谷元気助教 高橋美香子助教 飯島　伸助教 野宮孝之助教 大橋祐生助教 小野寺慧助教 (口腔外科学) 熊谷章子准教授 (法歯学・災害口腔医学)	**全体実習5** **歯の固定、顎間固定** **(臨床第1実習室)** 顎骨骨折に対する治療法に関する知識、技能、態度を習得する。	1. 顎骨骨折の治療法を説明する。 2. 歯の結紮および線副子固定法を適切に行う。 3. 顎間固定法を適切に行う。
9月29日(金) 1限	山田浩之教授 (口腔外科学)	**症例検討1** 顎口腔領域の疾患の治療方針、予後について習得する。	1. 経過、症状および各種検査所見から診断する。 2. 鑑別診断を列挙する。 3. 治療方針が立案する。 4. 予後について説明する。
9月29日(金) 2限	山田浩之教授 (口腔外科学)	**症例検討2** 顎口腔領域の疾患の治療方針、予後について習得する。	1. 経過、症状および各種検査所見から診断する。 2. 鑑別診断を列挙する。 3. 治療方針が立案する。 4. 予後について説明する。
9月29日(金) 3限	宮本郁也准教授 (口腔外科学)	**症例検討3** 顎口腔領域の疾患の治療方針、予後について習得する。	1. 経過、症状および各種検査所見から診断する。 2. 鑑別診断を列挙する。 3. 治療方針が立案する。 4. 予後について説明する。
10月2日(火) 3、4限	山田浩之教授 (口腔外科学)	**AST 2　評価試験**	9月14日から29日まで修得した知識を確認する。

教科書・参考書　(教：教科書　参：参考書　推：推薦図書)

	書　名	著者氏名	発行所	発行年
教	口腔外科学　3版	白砂兼光・古郷幹彦 編	医歯薬出版	2010年
推	口腔外科学　5版	工藤逸郎 監修	学建書院	2016年
推	標準口腔外科学　4版	野間弘康、瀬戸晥一 編	医学書院	2015年
推	最新口腔外科学　総論･各論　4版　全2巻	榎本昭二ほか編	医歯薬出版	1999年
参	カラーアトラス サクシンクト口腔外科学　3版	内山健志ほか編	学建書院	2011年
参	イラストでみる口腔外科手術　第1巻	日本口腔外科学会 編	クインテッセンス出版	2010年

成績評価方法

定期試験の評価点(90%) と ノート評価点(10%) を合算して評価する。

AST 定期試験評価点 ＝ AST 1(評価試験点数) x 50 % ＋ AST 2(評価試験点数) x 50 %
(小数点がでた場合、65 点以上は四捨五入、65 点未満は切り捨て)

それぞれの試験日は下記の通りです。
AST 1 (試験範囲:8 月 29 日～9 月 12 日までの学習): 9 月 13 日
AST 2 (試験範囲:9 月 14 日～9 月 29 日までの学習): 10 月 2 日

各実習時には、その終了時に実習評価を行います。そこで総合 65 点以上獲得した場合のみ AST 2 の受験要件とします。通常、まじめに実習すれば 65 点未満になりませんので、実習は欠席しないようお願いします。

ノートは図を多用して丁寧に分かり易く記載してください。 10 月 2 日 AST 2 試験の後に提出してくだい。

AST の再試について
AST の点数(総合点)が 65 点未満の場合には、2 月 20 日～2 月 27 日に行われる再試期間に再試を受けることができます。再試範囲は AST 1 と 2 の全てです。AST 1 あるいは AST 2 のどちらが 65 点以上でも領域の免除はありません。再試における AST 1 と 2 の評価ウエイトは、それぞれ 50%同様です。

特記事項・その他

AST の出席の取扱い
2/3 以上の出席が必要です。全ての講義・実習・演習で計算します。試験の出席は含めません。口外講義 82 コマ、全体実習5コマ、全コマ数は 87なので 58 コマ以上の出席が必要です。

授業に使用する機械・器具と使用目的

[AST]

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
カラー複合機・DocuCentre Ⅳ	C3370P	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習・講義資料作成用
ノートパソコン・MacBook Air 一式	11インチ MC505J/A	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習・講義資料作成用
デスクトップパソコン・MacPro	2.4GHz 8Core Xeon ZOLG	1	基礎実習用機器	実習・講義資料作成用
カラー複合機・一式	imagio MPC3301	1	基礎実習 ・ 臨床実習用機器	実習・講義資料作成用
ノートパソコンLets note B10	CF-B10 CWHDR	1	基礎実習 ・ 臨床実習用機器	実習・講義プレゼンテーション用
デスクトップパソコン	MC813J/A	1	基礎実習用機器 視聴覚機器	実習資料保存 症例プレゼンテーション用
Ettan IPGphor+Strip Holder一式		1	基礎実習用機器	実習試料作成用